## 環境で地方を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

## 成果報告会 発表資料

活動団体名:宮古島市

活動地域 : 宮古島市

マンダラづくりによるエコアイランド宮古島 実現に向けた起点探しプロジェクト

## 地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿

漁場 太陽光 廃棄物 市民が島の魅力 島外資本による開発 人手不足を 経済 農業・漁業 を知らない 解消する新 交通量増による子育 空き家活用 農地 社会 農漁業の の収益向上 風力 家賃高騰<課題①> 生産技術 てへの弊害 手法開発 環境 産業革新 再工ネを活用した ローカル・ 観光客とマッチング ローカルファンド 観光客増が エネルギー確保 台風に強い農漁業 ⇒地域住民の参画 ルール未整備 住民幸福度 する地元ビジネスが 民泊併設型 経済循環 の実現 店舗・交通に繋がらな 少ない の収入ある 一次産業就業 再工ネを活用 未来像ビジョン(1) 地域住宅 C1 混雑 低い農水産物 人口の拡大 した停電解消 農漁村を豊かさの核に 地域商社と の取引価格 観光客向け特産 住民と観光 空き家 ゆとり(お金・時間・心) 品と体験価値 地域ブランド 低い地域内 住宅の確保 客の交流が ある農漁村で暮らす人 調達率 集落 史跡 農水産品の 潮風・ 少ない があふれることで、豊か 墨観 交通不便の 高付加価値 海風 夕日・ な自然と文化が保全さ 朝日 解消 島内外の ビジネス 文化 住居の不足 海 れている 賃金格差 子育て環境の 賃料高騰 ホテルの域内 観光の収益性 113 お金 人 地場 改善 農漁業+文化+食 調達率拡大 向上 食材 時間 <課題③> 体験プログラム 大切にしたい価値観 都市から農村 歴史 観光客と育む 福祉×交通 若者が流出し 将来の大人像 への緩やかな ①自然、文化、史跡の エコツーリズム 都市機能⇒農漁 産業と文化を 未来像ビジョン② が描きにくい 人口流動 独自性を誇りに思う気風 村の利便性 星 維持できない 観光客を大切な友人に 新しいおと一り ②地域、世代を超え、 高等教育機 集落景観 観光客が単なる 地域課題を解決 観光客と住民の 関の不存在人間関係が 身内のように接する気風 文化の創造 地域行事の継承 消費者でなく、共 するしまづくり 満足度向上 濃すぎる 未来像ビジョン③ に宮古島の魅力 子育て世代 基金 を高め合う友人と 人口の拡大 働く世代 安心と自由を両立す なる おかえりと の考え 子供の笑顔で満たされた島にる適度な人間関係 環境改善の 女性 ただいま 地域通貨を用 見守りによる 相互理解 ビーチクリーン・ ひとりひとりが尊重 財源確保 地域内ロール いた島内経済 移住者 安心・安全 脱プラ・3R され、島中に子供の 循環の実現 モデル可視化 繋がり 笑い声があふれて 地域ぐるみの 入島料(エコの 地域ブランド いる 経済好循環 子育て支援 島応援基金) 地下水 高齢者 の創出・増加 ⇒ゆとり創出 尊重 つながり 防風林 役割と居場所 地域内留学 おとーり 希少種 子ども 情報格差を無 を実感 制度 くすプラット 急激な観光産業の 地域 固有種 高齢者と子 課題②> フォーム 発展による水資源 行事 域外との連携 どもの交流 水質・景観・ 豊かな自然 の不安 による遠隔高 地域を知り誇 子どもに 農森林の維持 環境を持続 子ども 等教育 集落 海岸線沿いの開発 りを育む教育 地域の役割 できない 景観 プログラム 共施設 による森林の減少

### 地域のビジョンを実現するための成果指標

ビジョン①農漁村を豊かさの核に:ゆとり(お金・時間・心)ある農漁村で暮らす人があふれることで、豊かな自 然と文化が保全されている。

ビジョン②観光客を大切な友人に:観光客が単なる消費者でなく、共に宮古島の魅力を高め合う友人となる。 ビジョン③子どもの笑顔で満たされた島に:ひとりひとりが尊重され、島中に子どもの笑い声があふれている。

### 短期目標長期目標

環境

エコ活動促進ツール「理想通貨」の認知度 14→21% (2020) 地下水の水質(窒素濃度) 5.05→4.64mg/L(2030)

経済

地域主導型再エネサービス事業 試験的導入箇所 0→3箇所(2020) エネルギー自給率 2.9%→22.1%

社 会

マンダラ会議 (地域別・分野別) 開催数 0→3回

若年農業従事者数(65歳未満) 2,056人→2,500人(2030)

# コアとなる事業の概要3つ(事業の夕ネ)

		<u> </u>	
1	事業の名称	※ 農漁業を核とした地域ネットワーク構築事業	
	事業の概要	狩俣地区の伝統的な漁業である追い込み漁は、多くの鮮魚が水揚げされるが、非常に低価格で取引されているほか、農業も、マンゴーなどの施設栽培が増えつつあるが、抜本的な収入の増加に繋がっていない。 地域の農漁業と加工・流通・観光を繋げることで、付加価値を創出することで、若年人口の流出を抑え、地域の環境や伝統文化の保全を図る。	想定される課題・ボトルネック
			農漁業のイノベーションに必要となる技術的な検証が必要。
			1次・2次・3次それぞれのビジネスモデル検証が必要
2	事業の名称	コミュニティ版再エネ・プロバイダ・サービス事業	
	事業の概要	台風による停電対策ニーズが年々高まっている。特に市街地から離れた農漁村地域においては、停電が長期化することが、若年人口の流出の一因となっている。 市内事業者によって開発された再エネ・プロバイダ・サービス事業と連携し、コミュニティ主体による事業展開を図り、停電対策とエネルギー地産地消による地域経済循環のモデルを構築する。	想定される課題・ボトルネック
			地域住民が参画するファイナンススキームづくり 資金調達・設備調達・設置工事・需要家との契約・ 料金徴収・設備メンテナンス等の各種業務をどう役 割分担していくかの整理
3	事業の名称	観光客と育む新たなエコツーリズム構築事業	
	事業の概要	観光客が増加する中、地域住民との交流に対するニーズが高まっているが、接点を提供することができていない。 観光客と地域住民との接点をつくるため、ビーチクリーンを体験コンテンツとして提供するサービスを構築することで、新たな交流が生まれるとともに、海岸漂着ごみの問題意識共有に繋がる。	想定される課題・ボトルネック
			収集したごみの処理に係る手続きの簡素化

## 今年度事業の成果と課題、今後の意気込み

#### 今年度の成果 (本事業に取り組んで良かったこと)

- マンダラをつくり、繋がりを可視化することで、 施策の優先順位や課題間の関係性を共通理解することができた。
- 暮らしの視点で、議論することで、既存の縦割りの行政計画とは違ったビジョンを描けた。
- 市民や企業等との議論を重ねてきたことで、信頼関係構築に繋がり、対話の重要性を共通理解できたことで、継続を希望する声が多くあった。
- ステークホルダーについて検討することで、マンダラの議論が深まり、マンダラについて検討することで成果指標の議論が深まるなど、検討課題それぞれが相互に議論を深め合うような関係性があるように感じた。

#### 地域の活動の上での課題

- ビジョンについては、「マンダラ」とは何かを 理解し、構造化することに時間を要した。課題 の核心に迫るための、議論の深掘りについては、 さらに取り組みを継続していく必要がある。
- ステークホルダー巻き込みについては、密な議論を展開したため、巻き込める人数には制約があった。
- 指標については、経済・社会の指標は、市民感覚に沿った設定が難しい。

#### 今後の意気込み

- 産官民が連携し、未来を共創するための協議会の設立を目指す。
- 協議会は、今年度、経験したマンダラづくりのノウハウを活かし、ビジョンを含む、プロジェクト企画 立案を支援するプラットフォーム機能を担う。
- 社会課題解決を目的とするプロジェクトを対象として、多分野に課題がまたがる、あるいは新たなネットワークが必要な場合などに、協議会が相談窓口となり、地域別・分野別マンダラづくりを通して、新たなプロジェクト立案を支援する。

【宮古島のみらい共創協議会(仮称)】 自治会·青年会·PTA·老人 個人・法人 クラブ・婦人会・個人・法人 【地域循環】 【中核人材育成事業】 地域コミュニティsct ビジネスsct 産 民 集落版 社会課題解決に資する 曼荼羅 ビジネスモデル 【エコの島フェスティバル(仮称)】年1回 AM: 一斉クリーン作戦 PM:総会 各セクターの成果・課題発表共有 【官民交流会】 ビジネスsct 官 商工会議所青年部・ 伊商工会青年部·観光協 会青年部・青年会議所 新政策 規制・税制・予算 プラットフォーム提供 ファシリテーション提供 WEB・FES・広報誌・理 【地域循環】 WS・円卓会議 想通貨・認定制度 公共sct 【地域循環】 【ブランド化】 市SDGs職員WG コミュニケーションsct コミュニケーションsct クラウド・ファンディング グッズ販売 パートナー制度 助成金 市